

原井の三則
 ☆場を清める
 ☆時間秩序を正す
 ☆人間関係を高める



原井校だより

第204号 令和5年
 2月15日(水)
 発行・原井小学校
 TEL.22-0863

コロナ禍の三年間を振り返って

三学期も半ばとなり、令和四年度も残すところ一月ばかりとなりました。コロナも落ち着きを見せています。幸いなことに、今のところ原井小学校ではインフルエンザも流行っていません。ぜひともこのまま、学級閉鎖等がなくて一年のしめくりを無事に行うことができればと願うところです。



原井小学校に着任して三年が過ぎようとしています。この三年間は、コロナに始まりコロナに終わる三年間であったように感じています。学校閉鎖や学年閉鎖があり、今年度は、一学期の終業式を行うことなく夏休みに入るということまでありました。様々な学校行事等が中止になりました。行事等の実施形態を変えざるを得ないことも当たり前でした。一番心配したことは、子ども達の心に与える負の影響でした。学校を長期に休んで家に閉じこもって過ごさなければならぬ。友だちと大騒ぎをすることも許されない。運動会

も縮小開催、修学旅行もこれまでのように広島に行くことはできず、県内の実施となりましたストレスがたまることも数多くあったのではないでしょう。加えて授業時数が不足することをなんとか防がなければならぬという思いも強くありました。夏休みを短縮すること等を通して、必要とされる基本時数は確保することができました。学力調査の結果を見ても、学力保障という点では、大きなマイナスは回避することができたのではないかと思っています。このような悪条件の下ではありましたが、子ども達は、教育環境の変化に頑張っただけで対応してくれました。その対応力のすばらしさには本当に頭が下がります。

コロナが完全に終息したわけではありませんが、感染拡大防止にはこれからの注意を払わなければなりません。しかしながら、令和五年度には、大きな変化が予測されます。コロナの感染症法二類から五類への引き下げです。このことにより、全てのことがコ

ロナ前に戻るわけではありませんが、大きく変わることは間違いありません。社会の雰囲気も教育環境も良い方向に向かうことが期待されます。

コロナ禍の三年間は、間違いなく負の影響を強く受けた三年間といえるでしょう。しかしながら、教育現場では、んだりしたこともあります。これからの教育にとつてプラスに働くこともないわけではありません。何より、これまで学校教育において当たり前と思われていたことについての再考が行われました。授業は、教員が教室で全児童に対して行うもの。運動会は、お弁当を用意して一日かけてやるもの。といったようなことを、もう一度本当にそうでなければならぬのか、他のものとよいやり方があるのではないかと検討が行われ、実際に変化をしていきました。ICT活用教育の進み方は特に顕著でした。コロナ禍の中であったからこそ必要感から、一人一台端末(タブレット)は実現したと私は思っています。このことは、子どもたちが生きる未来を考えたとき間違いなくプラスに働くはずです。

コロナ禍を経て、良いことも悪いこともひっそりめ、子ども達の未来への成長につなげていかなければならぬと考えるところです。

協働のまちづくりフォーラム

二月十一日(土)、浜田市の課題や将来を市民が考える「協働のまちづくりフォーラム」が、いわみーるで行われました。このフォーラムに原井小学校六年生有志が参加をして発表をしました。

子ども達が発表したのは、学習発表会で披露した、「浜田市が若者にとつて住みたくなるような街づくり、絆づくり」の提言でした。商店街の活性化や祭りやイベントの創造など、五つの視点からグループごとにパワーポイントを使ってプレゼンをしました。

会場には、多くの人が集まっており、その前で発表することは、かなりのプレッシャーがあったと思います。そんな中であつても、堂々と発表する子ども達の姿はとても頼もしく、六年間の成長を強く感じ、誇らしい気持ちでいっぱいになりました。

原井小学校で学んだことを生かして、将来、今回提言したことを浜田市の活性化のために実現してくれる人が出てきてくれればこれに勝る喜びは無いと思ひながら聞いていました。会場で、多くの人から、素晴らしい発表でしたねとお褒めの言葉をいただき、本当にうれしく思いました。